



なるほど
納得!

衣生活の知恵

気付かずに衣服を 傷めていることがある

最近は何でもコンパクトになって、ポケットサイズという言葉が一般的です。

スマートフォン、ミュージックプレイヤーなどの硬いものを、ポケットに入れておくと、膨らんだ部分の表地が擦れてしまい、クリーニングによって、損傷が際立ってしまうということがあります。



ショルダーバッグのベルトや、腕にかけるハンドバッグのベルトなど、外出時に常に擦れる部分、会社や学校で、いつも座っているイスのキズなどによって、傷んでしまうこともあります。

特にニット製品の場合、気をつけたいのが、バッチやブローチのピンによる糸切れです。目立つようになってしまう場合がありますから、クリーニング前にはよく確認をしましょう。

絵画の中の洗濯風景

コインランドリーの青年



イザベル・レイガーツ (2020年) ©Artmajeur

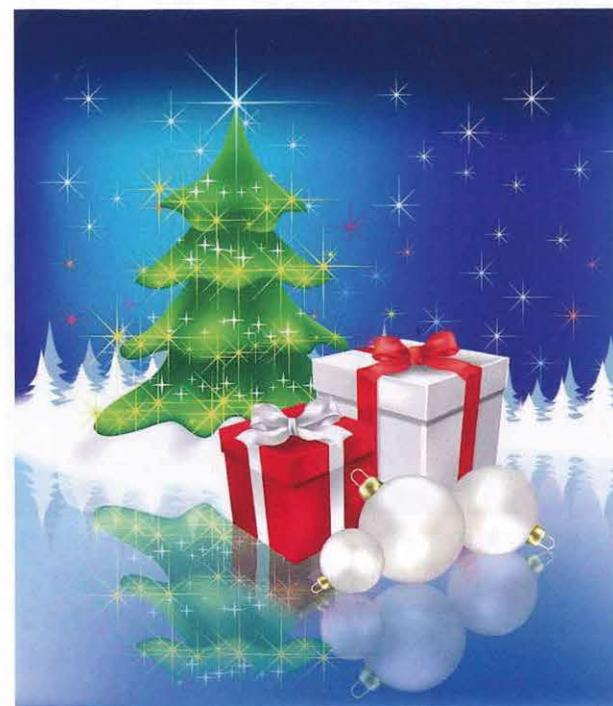
ベルギーのイザベル・レイガーツは、彼女の目に映る日常の人々を描く現代画家です。特に身の周りの人の自然な表情を写し取ります。

彼女は、表現としては写実的な手法を望んでいません。彼女の独特な光と反射によって描き出す形象と色彩の中にある情景を、見る人に自由にイメージしてもらいたいと考えているということです。そしてできればその絵の中に何らかの思いを感じてもらいたいのです。

この作品は、コインランドリーで見かけた青年を描いています。洗濯機の上にぼんやりとして腰かけている幼さの残る青年。洗濯の仕上がりを待ちながら、一人暮らしの生活の現実を、外から差し込んでいる光が浮かび上がらせています。

HomeDry News

ホームドライニュース No.112



- 絵画の中の洗濯風景:
コインランドリーの青年
- なるほど納得! 衣生活の知恵:
気付かずに衣服を傷めていることがある
- 繊維と服飾の物語:
「綿」を「羊毛の木」と呼ぶドイツ人

繊維と服飾の物語



「綿」を「羊毛の木」と呼ぶドイツ人 近代まで綿は謎の繊維でした

●ドイツ語で綿はバウムボーレ



ドイツ製のアパレル製品に付けられたケアラベルの表示に“100% Baumwolle”とあります。これは、ドイツ語で「綿 100%」という意味になります。“Baum (バウム)”はドイツ菓子で有名なバウムクーヘンでも知られるように「木」のこと、“wolle (ボーレ)”は、「羊毛」のことです。つまり、“Baumwolle”とは「羊毛の木」という意味になります。

なぜ、こんな呼び名になったのでしょうか。実は北ヨーロッパに「綿」が普及したのは近代になってからのことで、それまで麻と羊毛繊維しか知られていなかったことから、羊毛のようにソフトな肌触りで温かいこの繊維は、木に実る謎の羊毛だとされていたからです。

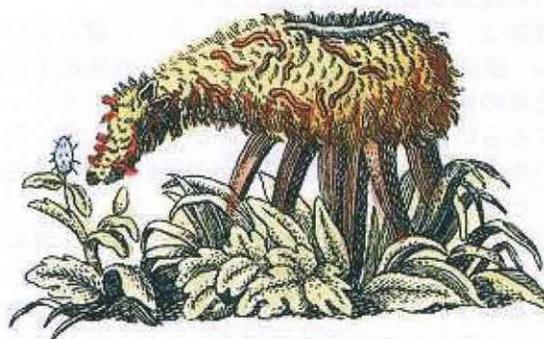
綿は、本来熱帯の植物で、インドと南アメリカ

が原産地とされています。ですから、ヨーロッパの人々は、綿という植物を知らず、17世紀初頭に設立された東インド会社によって、初めて大量の綿繊維がヨーロッパに輸入されるようになり、その後、産業革命による大規模な綿紡績工場が稼働するようになり、徐々に普及していったというわけです。そして、今では全繊維生産量の半数近くを占めるようになりました。



熱帯の植物である綿の花はハイビスカスの仲間

●羊が木に実るといふ伝説



1801年のバロメツの想像図(Wikipediaより)

中世ヨーロッパには「バロメツの木」という半植物半動物というものがあつたとする伝説があります。その実には子羊が入っており、熟すると成長した羊になるとまことしやかに語られていたということです。

このバロメツは、ゲームソフト「ファイナルファンタジー14」で「死活の罫バロメツ」のボスモンスターとしても登場しています。

●日本でも室町時代以前には無かつた

日本でも、朝鮮半島から綿製品や栽培技術が伝わつたのは室町時代とされています。

それ以前には、綿布というものが無かつたので、帆船の帆もいわゆる帆布では無かつたわけで、遣唐使船の帆として使われていたのは竹を網代に編んで作られたものを帆として使っていたということです。



竹の帆の遣唐使船図(図説和船史話より)

竹を編んだ帆で、中国への外洋を渡ろうとしていたわけですから、当時の航海はいかにも困難なものだったことでしょう。

このように、今では世界で最も親しまれている天然繊維「綿」が、実は近代までほとんど世界に知られていなかったということはとても意外なことに思えます。